

# News Release

**Kanadevia**  
Technology for people and planet

カナデビア株式会社

2025年2月7日

## 水素発生装置の中核機器（水電解スタック）量産に向け、 山梨県および都留市と立地協定を締結 ～ 産業集積・雇用拡大・地域経済活性化に向け相互連携 ～

カナデビア株式会社は、固体高分子（PEM：Polymer Electrolyte Membrane）型水素発生装置の中核機器となる水電解スタックの量産工場を山梨県都留市に建設するにあたり、本日、山梨県庁において当社の桑原 道取締役社長、長崎 幸太郎山梨県知事、堀内 富久都留市長が、工場建設（以下、本事業）の実施に関する調印式を実施し、立地協定を締結しましたので、お知らせします。

### 【山梨県庁での調印式の様子】



（左から長崎知事、桑原社長、堀内市長）

本協定は、本事業の実施にあたり、当社、山梨県、都留市の3者が相互に連携することにより、活力ある産業集積と雇用機会の拡大を図り、事業の円滑な実施や地域経済の活性化などを目的と

するものです。立地協定では、山梨県および都留市による本事業への支援体制の確立、当社による地元からの従業員雇用などを含めた地域振興、さらには、3者による国内外における水素社会の実現に向けた連携・協力などが取り決められています。

新工場は、山梨県都留市厚原地内の新工業団地に約 80 億円を投じて建設予定で、本年設備設計に着手しました。現地での着工は 2026 年 6 月頃を予定し、2028 年度末までに完成、操業開始を計画しております。水電解スタックの生産能力は、年産 1GW(電解効率 5 kWh/Nm<sup>3</sup>として製造水素換算 15 万 7 千トン/年)になります。

当社は、山梨県などが国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の委託事業として実施している同県米倉山での P 2 G (Power to Gas) システムの技術開発事業に水素発生装置 (1.5MW) を納めているほか、2021 年には山梨県などと共に再生可能エネルギー由来の電力を活用した水電解による水素製造プロジェクトがグリーンイノベーション基金事業に採択されており、水素発生装置の大型化などに取り組んでいます。

本事業の実施場所については、これまでの山梨県での取り組みに加え、「クリーンエネルギー先進県」を目指す山梨県の再生可能エネルギーに対する積極的な施策や、都留市が全国各方面から抜群にアクセスが良いことなどから決定したものです。

水素発生装置の世界の導入容量は、2024 年末までに 5GW に達していますが、2030 年までに 230GW となるとの試算があり、開発初期段階のプロジェクトを含めると、520GW 程度にまで拡大するとの予測が報告<sup>\*</sup>されています。当社は、水素関連事業で 2030 年代に売上高 1,000 億円以上、2040 年代には 2,000 億円以上を目指しています。

※ International Energy Agency (IEA) "Global Hydrogen Review 2024"

なお、新工場の概要は次のとおりです。

1. 建設地：山梨県都留市厚原地内 工業団地
2. 敷地面積：約 36,000 m<sup>2</sup>
3. 生産機種：PEM 型水素発生装置の水電解スタックおよびシステム (将来計画)
4. 生産能力：1GW/年 以上
5. 完成予定：2028 年度末
6. 従業員数：約 100 人 (操業開始時)
7. 投資額：約 80 億円

(終)

【ご参考：水電解スタック量産工場の外観イメージ図】



【ご参考：当社プレスリリース(2024年11月19日)】

PEM型水素発生装置の水電解スタックの量産工場を山梨県都留市に建設決定 ～ 経済産業省「GX サプライチェーン構築支援事業」に採択 ～

<https://www.kanadevia.com/newsroom/news/assets/pdf/FY2024-84.pdf>